

施策カルテ

1 施策の位置付け

総合計画 政策の柱	市民の安全で健康な笑顔あふれる暮らしを支えるために	政策名 (基本施策名)	愛情豊かに子どもたちを育む	取組の 基本方向	「愛情豊かに子どもたちを育む」ため、子どもの社会的な養育環境を整備するための「児童健全育成環境の充実」、すべての子育て家庭が安心して子どもを育てられる環境の整備を進めるための「子育て支援の充実」、ひとり親家庭等の自立と安定した生活を確保するための「ひとり親家庭等への支援充実」、子どもの人権を尊重するための「子どもへの虐待防止対策の強化」に、重点的に取り組みます。	政策目標 (基本施策目標)	家庭、地域、事業者、行政等の十分な連携のもとで、市民が安心して子どもを生み育てています。
--------------	---------------------------	----------------	---------------	-------------	--	------------------	--

2 施策の現状と達成状況、課題の抽出

①施策名	児童健全育成環境の充実		④施策の達成状況	施策指標(単位)						達成率 (%)	
				H19:基準	H20	H21	H22	H23	H24:目標		
②施策目標	児童が自主的・主体的に活動できる環境が整い、健やかに育っています。		指標① (総合計画に基づく指標)	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	-----	17.6%
③施策を取巻く環境	国・県等の動向	核家族化や地域社会の希薄化などにより、子育ての環境が厳しさを増しており、家庭、地域、事業者、行政等が連携し、次代を担う子どもたちが健やかに生まれ育つ地域社会を築くことが重要となっている。県においては、平成22年3月に次世代育成支援対策行動計画(後期)である「とちぎ子育て支援プラン」を策定し、身近な子どもの遊びの場や安心して過ごせる居場所の整備・確保が必要であるとし、児童館や公園、自然とのふれあいの場などを推進している。		-----	6	16	26	36	51	-----	
				外部意見 その他	平成22年3月の社会福祉審議会からの提言において、核家族化や地域との関係の希薄化などにより、家庭や地域の養育力が低下するなど、子育ての環境が厳しさを増しており、このような社会環境に対応するため、子どもを生み・育てやすい環境づくり、子育てを地域全体で支える環境づくり、子どもが健全に育ちやすい環境づくりが必要との指摘があった。	2	3	9			
				指標②	-----	25	35	39	39	39	
			指標③	-----	25	24				-----	
			指標④ (特記事項)	-----							-----

  

⑤市民意識調査結果	市民の 施策満足度	19.0%	市民の 施策重要度	64.0%	達成度 (単年度目標)	達成している (90%以上)	概ね達成 (70%~90%未満)	●	達成していない (70%未満)	説明	地域が主体となった事業として、宮っ子ステーション事業及び青少年の居場所づくり事業について、目標に達しておらず、さらなる推進が必要である。	⑦現状分析と課題の抽出 (③⑤⑥を踏まえた分析)	成果が見られる点	地域が主体となった青少年の居場所の設置数や宮っ子ステーション事業など、青少年が自主的・主体的に活動できる環境整備が徐々に進んでいる。
					必要性・緊急性 (住民・社会ニーズ)	●	増加している	●	横ばい	説明	核家族化・地域との関係の希薄化の状況は進み、これまで以上に児童を取り巻く育成環境の整備が求められている。			
					適切性 (適切な事務事業の選択、実施)	●	十分である	●	不十分な事業が一部ある	説明	宮っ子ステーション事業及び青少年の居場所づくり事業についてさらなる推進が必要である。			
					有効性 (政策目標への効果)	●	十分である	●	やや不十分である	説明	地域住民が主体となって運営する、宮っ子ステーション事業や青少年の居場所づくり事業等は、子どもに身近な地域との関わりの中で児童育成環境の充実を図る上で効果的である。		改善の必要な点	子どもが自主的・主体的に活動できる場を身近にするため、地域とより密接な連携を図りながら、青少年の居場所づくり事業や宮っ子ステーション事業の実施箇所数のさらなる増加や内容の充実を図る必要がある。

3 今後の取組方針

⑧取組の 考え方	総論	地域の実情、ニーズ等を踏まえながら、子どもたちが安心して遊べる場の整備や活動環境の浄化を図り、子どもたちを地域全体で見守り、育てていくための環境整備を推進していく。	⑨政策評価 会議意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが健やかに育つ環境を整備するため、地域とより密接な連携を図りながら、地域の実情やニーズも踏まえ、子どもたちが安心して遊べる場の整備や活動環境の充実を図っていく。</li> <li>体験活動や異年齢交流は子どもの健全育成において重要であり、地域住民が主体となり運営する「宮っ子ステーション事業」について、目標年次の達成に向け推進していく。</li> <li>子どもが地域において自主的・主体的に活動できる環境をつくるため、「青少年の居場所づくり事業」などにおいて、関係団体や子どもの意見等を踏まえ地域と一層の連携強化をしていくような方策を検討する。</li> </ul>
	重点事業	放課後子ども教室推進事業について、子どもの家と留守家庭児童会が一体となった、宮っ子ステーション事業について目標年次の達成を目指し、推進していく。		
	見直し事業	青少年の居場所づくり事業について、中学生においても利用しやすい居場所となっていくよう、市民会議や運営団体等の意見を踏まえながら、設置の増加や活動内容の充実を図っていく。		

4 施策を構成する事務事業一覧

No.	事業名	対象者	開始年度	活動指標等	H20	H21	H20	H21	重点度 (A~C)	事業の 方向性	施策目標を達成するための取組方針
					目標値	目標値	事業費	事業費			
					実績値	実績値	(千円)	(千円)			
1	青少年の居場所づくり事業 担当課 子ども未来課	小学生・中学生・高校生	H15	地域における青少年の居場所設置数	25	35	840	60	A	継続	地域における青少年の居場所の設置は、異世代交流などを通して人間性や社会性を養う上で有効であるため、今後とも拡大に向け継続して取り組んでいく。
					25	24					
2	青少年の居場所づくり事業交付金 担当課 子ども未来課	地域(宇都宮市青少年市民会議)	H18	地域における青少年の居場所設置数	25	35	3,300	2,192	A	継続	地域における青少年の居場所の設置は、異世代交流などを通して人間性や社会性を養う上で有効であるため、運営団体を広く募集し、活動を促進する。
					25	24					
3	チビッコ広場整備事業費(単独) 担当課 子ども未来課	自治会等	S49	広場・遊具整備力所数	6	6	2,748	1,850	B	見直し (適正化・効率化)	地域と意見を交換しながら必要性を見極め、必要なものについては、引き続き維持していく。また、事故防止を目的とした点検活動を実施し、施設の整備・修繕・撤去を行い、子どもたちが安全に遊べる広場環境を整備するとともに、公園・広場の一つとして一元的な管理が可能かどうか検討する。
					11	11					
4	児童遊園事業費 担当課 子ども未来課	児童(小学生以下)	S55	あそぼの家事業開催数	40	40	3,271	3,452	B	継続	遊びを通して児童の健康増進と情操を豊かにすることは重要であることから、利用者のニーズの把握に努め、指定管理者と連携した事業運営を行っていく。
					46	43					

様式 2

再掲	社会体験学習推進事業		宇都宮市立中学校2年生 の生徒全員	H14	充実した体験をした生徒の割合	100.0	100.0	—	—	—	継続	充実した体験学習ができるよう、各種団体とのさらなる連携により受け入れ先事業所の確保に努める。
	担当課	学校教育課				91.1	91.0					
再掲	放課後子ども教室推進事業		児童及び地域住民	H19	宮っ子ステーション実施校区数	6	16	—	—	—	継続	体験活動や異年齢交流は子どもの健全育成に重要であり、また、事業を地域住民が運営することで、地域の教育力の向上が図れるため、施策目標への貢献度は高い。今後についても子どもの家事業との一体的な実施を目指しながら、宮っ子ステーション事業としてさらに事業を推進していく。
	担当課	生涯学習課				3	9					
						162	574					
						346	589					
施策事業費合計						3,271	3,452					